

『好色文庫』総目次

日本文学／准教授 原 卓史

【キーワード・カストリ雑誌、大阪、古典文学研究所、無名作家】

【凡例】

- 一 本稿は、カストリ雑誌『好色文庫』の総目次である。
- 一 記載事項は、以下の通りとする。

(イ) 書誌的項目

書誌的項目は、以下の通りに記す。①巻号、②出版社、③出版地、④印刷年月日、⑤発行年月日、⑥内容細目、⑦編集兼発行人、⑧印刷人、⑨表紙絵・挿絵等の執筆者、⑩価格、⑪総頁数、⑫判型、⑬キーワード、⑭分析に用いた資料の所蔵先、⑮備考

(ロ) 漢字表記・仮名遣い

旧漢字、歴史的仮名遣いなどは、そのままの表記を採用した。異体字は現行の表記に改めた。

(ハ) 内容細目

(イ) ⑥の内容細目は、内題の表記に従った。ただし、目次に異なる表記がある場合は、(イ) ⑮の備考欄に示した。

(ニ) 所蔵先

所蔵先…大阪芸術大学、同志社大学、架蔵

(ホ) 備考欄

原則として内題と目次で異なる表記がある場合は、ここに示した。また、表紙・裏表紙・奥付で異なる表記がある場合は、その旨を記した。

一 解題では『好色文庫』の特徴を紹介する。

一 人名・作品名索引では、記事に記載されている人名・作品名の索引を作成した。

『好色文庫』総目次



- ① 第一巻第一号
- ② 古典文学研究所
- ③ 大阪府大阪市浪速区吉野町三
- ④ 一九四九年四月二五日
- ⑤ 一九四九年五月一日
- ⑥ 目次(内題の順)
 - 長井欣一郎(志田正美画)「変化愛慾姫」(六〇～一〇頁)
 - 未署名「☆好色文庫☆」(七〇～七頁)
 - 未署名「覗かれた處女」(一〇〇～一〇頁)
 - 吉永泉水(理章画)「好色の里(第一話)」(一一〇～一三頁)
 - 未署名「ネオデカメロン」(一三〇～一三頁)
 - 桃色敷布「ノミの宿彌夢物語」(一四〇～一五頁、一九頁)
 - 文乃家千代菊(鹿美画)「奥方情艶録」(一六〇～一九頁)
 - 大田とめ子「濡れ絹裸御殿」(二〇〇～二三頁)
 - 穴守好太郎(三好義寛画)「流れる性慾」(二四〇～二五頁、七頁)
 - 和田平助(下井和世画)「コント」コンドーム広告」(二六〇～二七頁)
 - 永井種子「眞赤な裸像」(二八〇～三五頁)
 - 古典医学研究所「性愛の秘宝」(三六〇～三六頁)
 - 奥付(三六頁)
- ⑦ 古川仁人
- ⑧ 古川仁人
- ⑨ 表紙・不記、扉・目次・不記
- ⑩ 六〇円
- ⑪ 全三六頁
- ⑫ B五判(179×254)
- ⑬ カストリ雑誌、月刊誌
- ⑭ 架蔵
- ⑮ 表紙には「時代愛慾繪卷」とあり、目次には「愛慾繪卷特集」とある。「大

田とめ子」は目次では「太田とめ子」となっている。「覗かれた處女」は内題では未署名だが、目次では「鹿尾節子」による執筆となっている。表紙・裏表紙の印刷年月日は一九四九年五月五日、発行年月日は一九四九年五月一〇日となっている。

【「好色文庫」解題】

カストリ雑誌の過半数は東京で刊行されていたが、地方での刊行も少なからず見られた。中でも大阪は多くのカストリ雑誌を生んだ土地柄であった。その中の一誌が『好色文庫』である。編集方針を、未署名「☆好色文庫☆」の中で、「好色文庫は皆様の好気をそゝるものに非ず、そもそも洋の東西を問わず好めるものは色と慾にて、その前者廣く世の中の糧となりて、和合又饗宴の美食に勝る。世の老若男女を問わず読め、好色文庫を」と示している。

当該雑誌も他のカストリ雑誌と同様、GHQ/SCAPによる検閲を受けていると思われる^(注1)。しかし、国立国会図書館所蔵のプランゲ文庫には、雑誌のマイクロ・フィルムが収蔵されていない。それゆえ、どのような検閲が行われたのかを確認することができない。

また、出版社の古典文学研究所や編集兼発行人にして印刷人の古川仁人についても詳細は分かっていない。今後の調査が必要であろう。

現時点で確認できている雑誌そのものは、第一巻第一号である^(注2)。当該号で「愛慾繪卷特集」が生まれ、小説、コント、埋め記事などが掲載されている。コントや埋め記事は戦後の時代に関する内容が掲載されているが、小説はすべて歴史・時代小説となっている。歴史・時代小説の専門誌の体裁をとったカストリ雑誌といえる。掲載された小説は、長井欣一郎「変化愛慾姫」、吉永泉水「好色の里」、桃色敷布「ノミの宿彌夢物語」、文乃家千代菊「奥方情艶録」、太田とめ子「濡れ絹裸御殿」、永井種子「眞赤な裸像」である。

『好色文庫』に掲載された小説の特徴は、三つある。一つ目は、「色と慾」を描いていることである。このことについては、後述することとする。二つ目は、

無名作家たちが執筆していることである。日本文学史にその名をとどめている作家が一人もいない。これは客寄せをするための編集をしなかった、もしくは有名な作家に原稿を依頼したけれども答えてくれる作家がいなかったということの意味しているのだろうか。

そして三つ目は、複数の女性作家が執筆していることである。このことは、『好色文庫』にとって、重要な要素だったと思われるのである。なぜなら、先ほど示した内題の配列とは異なり、「目次」では女性作家に目が向くような配列・構成になっているからである。目次の配列は、

- 文乃家千代菊「奥方情艶録」
- 太田とめ子「濡れ絹裸御殿」
- 長井欣一郎「変化愛慾姫」
- 吉永泉水「好色の里」
- 桃色敷布「ノミの宿彌夢物語」
- 永井種子「眞赤な裸像」
- 和田平助「コンドーム広告」
- 鹿尾節子「覗かれた處女」
- 穴守好太郎「流れる性慾」



の順となつてゐる。一番最初に女性作家と思しき文乃家千代菊が掲げられ、それ以降の女性作家の作品には、太字のゴシックで作品の表題が示されているのである。

このように女性作家を印象付けるような編集方針を取っているのである。カストリ雑誌は、読者対象を男性に設定して編集されることが多い傾向にあるが、女性もまた「色と慾」について語ることが不思議ではないことが示されているのではなからうか。ただし、『好色文庫』が女性読者を対象として作られた雑誌かどうかは、掲載作品から判断することは困難である。

さて、「色と慾」を描いた時代小説とはいかなるもののだろうか。ここからは、作品の内容をモチーフごとに紹介していきたい。

まず注目したいのは、未婚の女性が男性と関係を持つ物語についてである。長井欣一郎「変化愛慾姫」は、種姫とその息子の種之介が奔放に性生活を楽しむ話である。死んだはずの正之介が狐と化し、その狐と種姫との姦通が描かれている。淫乱な姫様が婚前に男性と関係を持つというのは、ありがちな話である。カストリ雑誌には婚前の処女喪失がよく描かれており、その流れにそつたものといえよう。同じモチーフを扱うのが、吉永泉水「好色の里」である。夫に相手にしてもらえないお時を見かねた丁稚の政吉は、お時と関係を結ぼうとするが断られてしまう。諦めきれず寝所に忍び込もうとしたところ、箱入り娘のお光が出てきて彼女と肉体関係を楽しむ。夫のいる女性との交渉は回避されるものの、未婚の女性との関係が描かれている。未婚女性の処女喪失が描かれているのである。永井種子「眞赤な裸像」は、草吉がマリ子の幻影を、別の女性たちに求めてしまう物語である。草吉がマリ子と関係を持ったとき、マリ子が男を知らなかったからである。ここでも女性の婚前交渉と処女喪失のモチーフが登場している。このように、未婚の女性が男性と関係を持つことは、カストリ雑誌が取り上げるトピックのひとつだったのである。

次に注目したいのは、巻頭の長井欣一郎「変化愛慾姫」とゆるやかにモチーフが連関している小説が見られることである。桃色敷布「ノミの宿彌夢物語」は、ノミの宿彌が姫さまの身体の秘密を磨様に話す物語である。動物が主人公となつ

て人間社会を描くというスタイルは、夏目漱石「吾輩は猫である」をはじめ、多くの作品で試みられてきた。この作品はカストリ雑誌らしくエロの要素を取り入れたものといえる。長井欣一郎「変化愛慾姫」が猥褻を扱ったのに対して、「ノミの宿彌夢物語」はノミの目線を通して女体の秘密を描いていく。このように、動物が小説のモチーフとなっているのである。姦通もまた、複数の小説で描かれている。文乃家千代菊「奥方情艶録」は、家老の妻と漁師が姦通し、父の立花宗之進が二人を斬り殺す物語である。漁師のことを想いすぎて浜に姫の幽霊が出るといった趣向が凝らされている。長井欣一郎「変化愛慾姫」が姦通の一步手前で留まるのに対して、「奥方情艶録」は一線を越えてしまう物語である。姦通もまた、カストリ雑誌によく取り上げられるモチーフであるといえよう。このように、長井作品と同じモチーフを用いながら、異なる角度から描かれた小説が掲載されているのである。

最後に注目したいのは、殿のご乱行というモチーフについてである。太田とめ子「濡れ絹裸御殿」は、筑前名島で若い三人の娘が殺され、下手人が捕まるまでを描いた捕物帳である。家老の子息が試し斬りを楽しむ姿が描かれている。こうした手法は、捕物帳はもちろん、歴史・時代小説においてもよく用いられてきた。それゆえ、読者にとっては馴染のある手法といっていいただろう。

このように、『好色文庫』は処女、猥褻、幽霊、捕物帳など、様々なモチーフの歴史・時代小説を掲載したのである。その多くはカストリ雑誌ではよく使われるモチーフであり、類型的であるという評価は免れないだろう。しかし、あまり歴史・時代小説を発売できなかった戦後の時代に、執筆陣全員が無名作家だったとしても、それを専門にした小説誌を世に問うたことに一定の意味があったのである。

【『好色文庫』人名索引】

アナトールフランス
左京近江忠之

①31,
①9,

左京近江山城守忠久

①9,

バルビユス

①31,

フローベール

①31,

ポッカチオ

①13,

宮本武蔵

①10,

モーパッサン

①31,

ロレンス

①31,

【『好色文庫』作品名索引】

『好色文庫』

①26,

『好色文庫』

①27,

『デカメロン』

①13,

『枕草紙』

①11,

【注】

(注一) たとえば、雑誌『りべらる』は、数巻の欠号があるものの、一九四六年三月号(第一巻第二号)から一九四九年一月号(第四巻第一号)まで、プランゲ文庫に収蔵されていることが確認できる。

(注二) 山本明『カストリ雑誌研究 シンボルにみる風俗史』(出版ニュース社一九七六年七月)、山縣照「終戦直後の〈カストリ雑誌〉の総合的研究」(『平成17年度芸術研究所調査補助(特別枠)費 研究成果報告書』二〇〇六年三月)、山縣照「平成18年度プロジェクト研究 終戦直後の〈カストリ雑誌〉の総合的研究」(『平成18年度芸術研究所調査補助(特別枠)費 研究成果報告書』二〇〇七年三月)など参照。